

## ～～ は じ め に ～～

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、地震と津波により、人命や財産などに甚大な被害をもたらしましたが、本市においても、台風や大雨は言うまでもなく、北は山崎断層帯地震、南は南海トラフ巨大地震の脅威にさらされており、いつ大災害が起こってもおかしくない状況にあります。

本市では、これらのいつ発生するかわからない災害に備えるため、平素から避難所運営訓練や災害図上訓練（D I G）などの取り組みを行い、自主防災組織や市民の方々の防災意識の向上を図ってきたところです。

また、平成 23 年 9 月の台風 12 号による多大な浸水被害を受けて、台風が近づいてきたときから通り過ぎるまでの対応を順を追って記載した「自主防災組織の手引き【風水害編】」を災害時の対応マニュアルとして作成し、各自治会へ配布しました。

この手引きは、平時においても地域の図上訓練等で活用していただけるものと考えております。

つぎの取り組みとして、災害発生時に的確な行動をとるためには、平素から想像力を高めておくことが大事との考えのもと、具体的な災害場面を設定したうえで、「どのような危険にさらされるのか」「どのように行動すれば安全を確保できるのか」などを、想像しながらシナリオを組み立てていく「災害時シナリオシミュレーション」を実施しました。

実施にあたっては、災害想定を山崎断層帯地震としたため、本市の北西部より住宅が連担している地域として、市連合自治会の推薦を得た青山地区の連合自治会に協力をお願いし、「検討会議」を設置しました。

この検討会議には、地区連合自治会、消防分団、老人会、小学校の先生や P T A 役員の方々に参加していただき、シナリオ上の登場人物になったつもりで、そのときの状況や取るべき行動について、各人がイメージをふくらませ、白熱した議論を交わしていただきました。

その際の意見をできるだけ忠実に織り込んで、物語風にまとめあげたものがこの姫路市版の「災害時シナリオシミュレーション」です。

このシミュレーションに目を通してくださった方々が、自分ならどう行動するだろう、あるいは、もし大きな地震がおきたら自分の家は、家族は、地域はどんな状況になるだろう、また津波が襲ってきたら・・・などなど、いろいろと想像をめぐらせてくださることを期待しております。

そして、その想像力こそが、いざというときに自分自身を守り、減災につながるのと同時に、災害がおこった後の生活環境の向上にも寄与するものであると考えております。